

[シラス]

1. 経年経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では、平成 11 年の 5,450 トンをピークに減少傾向を示し、平成 14, 15 年と 1,000 トンを下回り低調に推移しました。その後、平成 16 年は 3,507 トンと比較的好調に推移しましたが、平成 17 年以降減少傾向を示し、令和元（2019）年は 679 トンとなりました。

志布志湾海域では、平成 19 年まで増加傾向を示しましたが、その後、1,000 トン前後で増減を繰り返しながら推移し、令和元（2019）年は 873 トンとなりました。

2. 令和 2（2020）年 6～8 月の漁況の経過

西薩海域では、水揚げがありませんでした。

志布志湾海域では、カタクチシラス主体に 66 トンの水揚げで、前年の 72 %、平年の 57 % でした。

3. 令和 2（2020）年 10～12 月期の見通し

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。

来遊量は西薩海域、志布志湾海域共に、前年を上回り、平年並と考えられます（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、近年の漁獲パターンから予測しました。

西薩海域及び志布志湾海域では、夏季降水量と秋漁に正の相関があり、これももとに予測すると、前年を上回り、平年並と考えられます。

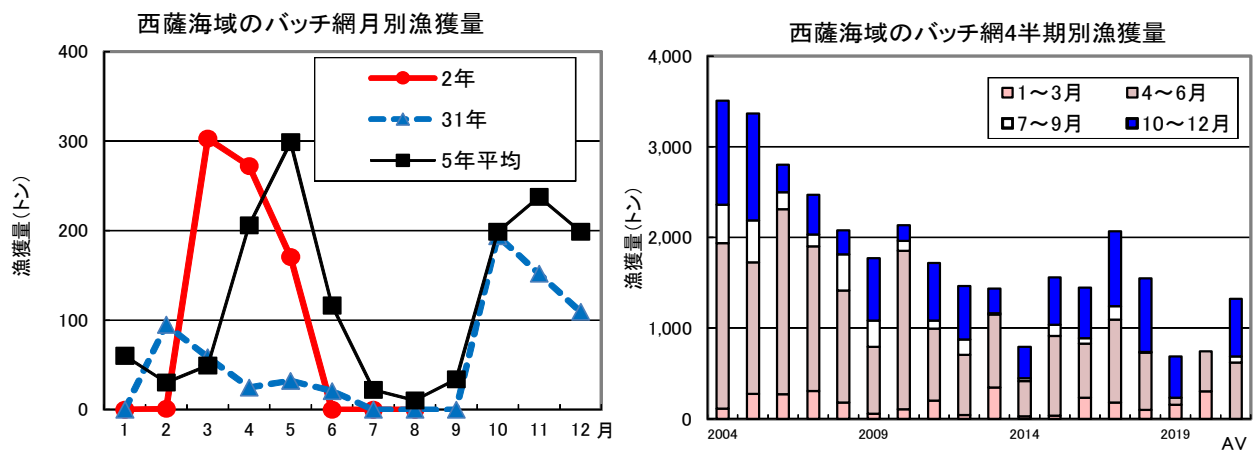


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化（4 漁協計）

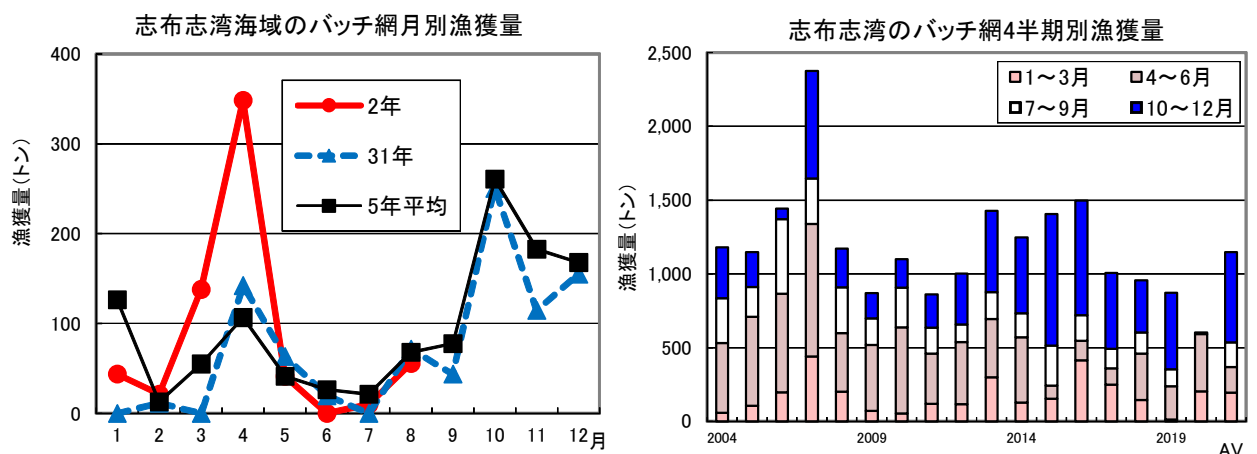


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化（2 漁協計）

※平年値は過去 5 年の平均値 (AV)，令和 2（2020）年 8 月 31 日までの水揚げ量を使用